

青少年の問題行動・非行・犯罪・被害の未然防止と子ども・若者に関する相談・支援についてのお知らせです。

高
島
市

少年センター・あすくるだより

高島市新旭町北畑45番地1 TEL:0740-25-8556

「学校と地域とのつながりの中で」

高島市中学校長会 会長 今井 俊彦

昨年、朽木地域住みよいまちづくり協議会の主催で、「トークフォークダンス」というイベントが朽木中学校で開催されました。体育館に円を描くように椅子を向かい合わせに並べ、内側の円には地域の方々、外側の円には中学生が座りました。1分間ずつ対話をしたら、中学生が隣にずれていく形式です。参加者は、数年前に本校を卒業した大学生から、中学生の子どもや孫がいる世代の方まで、様々な年齢層の方々でした。中学生にとっては、よく知っている方もいれば、初めて出会う方もおられたと思います。地域の方々が座っておられるところに中学生が入場してきたときは、お互いに緊張した様子が見られました。



ファシリテーターは、高島市出身で「ハンズオン埼玉」の西川正さんです。「昨日は何をしていましたか?」「子どものころに楽しかった遊びはなんですか?」などの質問でトークが始まると、すぐに和やかな雰囲気になりました。好きなもの、苦手なこと、好きな人のこと、仕事のこと、夢について、幸せになるにはどうすればいいかなど、いろいろなテーマについて語り合いました。話すときには身振り手振りを交えて一生懸命に伝えようとし、聞く方はうなずきながらじっくりと聞いていました。こんな機会がなければ、一生話することがなかったかもしれない貴重な経験がお互いにできたのではないのでしょうか。「有意義な時間になった」「また参加したい」との感想が、中学生からも地域の方々からもたくさん聞かれました。学校と地域の関係がより深まったと感じました。

さて、市内の小中学校では、「地域とともにある学校づくり」と、「学校を核とした地域づくり」を併せて実現しようとする取組が進められています。「トークフォークダンス」も、学校と地域をつなぐ取組の一環として、他の学校や地域でも行われています。地域の産業や伝統・文化を地域住民から学ぶ地域学習、職場体験学習などのキャリア教育、登下校の見守り、花壇や学校周辺の環境整備、本の読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援など地域の方々の力が学校の教育力向上につながっています。また、地域イベントにおけるボランティア体験や伝統文化・芸能の発表、楽器の演奏、地域の防災訓練への参画など、子どもたちの地域での活動が「学校を核とした地域づくり」につながっています。

学校と地域が協働して取り組む活動は、「できる人が・できる事を・できる時に・楽しく!」を基本としています。子どもたちが地域を舞台に活動し、地域の方々との交流を通じて、豊かな人生の基礎を学び、地域を支える存在として健やかに成長していけるよう、今後とも地域の皆様の暖かなお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

薬物乱用の危険を理解していますか？

今、危険度が増しているのは大麻です！

～高島の子どもたちを薬物乱用から守るために～

『麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動パンフレット』（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/001307387.pdf> を加工して高島市少年センターで作成

「薬物なんて…」高島の子どもたちには関係ないだろうと思いませんか？

全国の大麻事犯検挙者数は令和5年には6,703人、そのうち約7割にあたる4,887人が青少年となっており、青少年を中心に大麻乱用の裾野が拡大しています。

20歳未満の薬物乱用のきっかけは、「好奇心」や「不安」、「友達から誘われた」「仲間はずれが怖くて」など気持ちの面がほとんどだと言われています。「ちょっとだけなら…。」と軽い気持ちで手を出すと、気づいた時には薬物から抜け出せなくなってしまうのです。

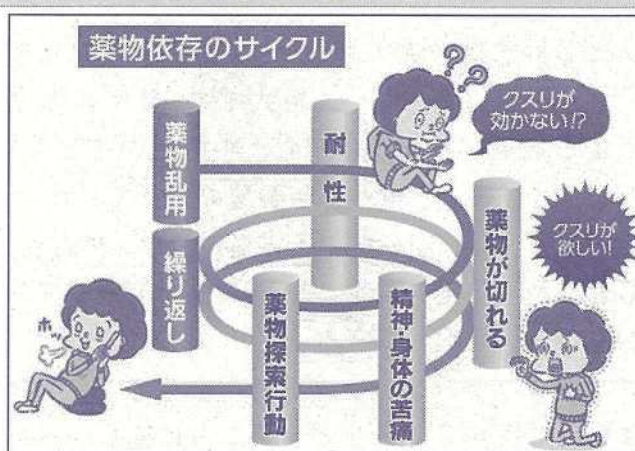
薬物乱用の最も恐ろしい特徴は、薬物の「依存性」と「耐性」です

依存性

薬物を、繰り返し使わずにはいられなくなり、薬物をやめたくても自分の意志ではやめられなくなってしまうです。

耐性

使用を繰り返しているうちに、それまでの量では効かなくなり、薬物の使用量が増えます。



一回だけと思って始めた人も、薬物の“依存性”と“耐性”によって使用する量や回数がどんどん増えていき、悪循環に陥ります。もはやそうになると自分の意志だけでは止めることはできません。

医薬品も間違った使い方は乱用です！

医師から処方された薬や市販薬を用法・用量を守らずに過量に摂取することは、健康被害を引き起こしたり、やめられなくなったりするおそれがあります。

また、処方された薬を他人に譲ることや、偽造品などのリスクが高い海外で販売されている医薬品を安易に個人輸入することは、避けましょう。



子どもを薬物乱用の危険から守るためには・・・！

スマートフォン、タブレット等は生活に欠かせないものとなってきました。しかし、これらの情報ツールの普及により、SNSが薬物売買の手段として広がり、薬物乱用の危険はすぐそこまで近づいてきています。SNS上では大麻などを意味する隠語などを使って購入を促す内容が多く投稿され、実際に未成年の学生がSNSを通して売人から大麻を購入した事件が複数報告されており、大きな問題となっています。

子どもたちが迷ったり困ったりしたときに相談できる大人がいることが鍵となります。何でもダメと否定するのではなく、子どもたちの声に耳を傾け、小さな変化を見逃さないよう、周りの大人が日々注意深く見守ることが大切です。子どもが自分自身を大切に成長していけるよう、保護者や周りの大人みんなで、高島の子どもたちを薬物乱用から守りましょう。

高島市少年補導委員会 活動紹介

高島市少年補導委員会は、高島警察署長ならびに高島市長から委嘱を受けた45人で構成されています。青少年の健全育成と非行・犯罪被害の未然防止をめざし、高島警察署・高島市少年センター、関係機関と協力して活動を展開しています。今回は啓発活動として行っている「たかしまおでかけ隊」を中心に紹介します。

「たかしまおでかけ隊」



「薬物乱用防止教室」

グループワークやロールプレイなどを盛り込み、発達段階に合わせた内容で小学生から高校生までを対象として実施しています。



「誘拐防止教室」

大型ロール絵本を使った内容で、保育園・幼稚園・こども園、小学校等を対象として実施しています。



「情報モラル教室」

グループワークを取り入れ、学校からの要望に沿った内容で実施しています。



中学時代からあすくると関りのあった若者が久しぶりにあすくると顔を出してくれました。当時の状況や思いを振り返ってメッセージをお願いすると、快く引き受けてくれました。

～Message～

私は中学生のときから不登校になり、何もしたくなくて家に引きこもっていました。母はそんな状態を見かねて、私を「あすくる」に連れて行きました。私は結構な面倒くさがりなので、乗り気ではなかったですが、カウンセリングを受けることで家族以外の人と会話できた達成感と自分の中で社会に一步近づけたような安心感を実感することができました。

そこから定期的に「あすくる」に通うようになって、パズルや手芸をしながら相談したり、話合ったりしました。たまに料理などもしました。そのとき作った料理のひとつが我が家に大好評で今でもよく卓上に出されます。

「あすくる」に通っていて実感したことは、単純な話ですが外に出る機会が増えるので、精神的にも体力的にも成長します。家にずっと引きこもっていると鬱々とした空気で漠然とした将来への不安について考えてしまいましたが、外に行く予定を作ることで生活にリズムが生まれ、自己管理や生活の質の向上にもつながります。私はアルバイトを続けることができ、家事などを自分からすることができるようになり精神的に健康になりました。

最初は行動するのが難しいかもしれないけれど、行ってみたらなかなか楽しいところなので、ぜひ「あすくる」に行ってみてくださいね。

高島警察署管内 少年非行のあらまし

(数値は高島市内で検挙・補導された少年の延べ人数で市外の少年も含まれています)

【少年の検挙・補導状況(人)】

高島警察署統計資料(令和6年12月末暫定値)より

区分	年別	令和6年	令和5年	前年比
刑法犯少年	犯罪少年	6	6	± 0
	うち女子	0	0	± 0
	触法少年	5	3	+ 2
	うち女子	2	0	+ 2
	小 計	11	9	+ 2
	うち女子	2	0	+ 2
特別法犯少年		3	1	+ 2
うち女子		0	0	± 0
不良行為少年		66	37	+ 29
うち女子		28	6	+ 22
合 計		80	47	+ 33
うち女子		30	6	+ 24

《 用語の説明 》

○犯罪少年

14歳以上20歳未満の少年で罪を犯した少年。(交通法犯を除く)

○触法少年

刑事責任のない14歳未満の少年で、刑罰法令に触れる行為をした少年。(交通法犯を除く)

○不良行為少年

不良行為(罰則の適用はないが、喫煙等少年の健全育成上やめさせるべき行為)をしており、そのまま放置すると非行に進む危険性がある少年。

- ・犯罪少年と触法少年を合わせた刑法犯少年は11人で、ここ数年微増傾向にあります。
- ・不良行為少年は66人で、前年同期に比べ29人増加しています。

【不良行為少年・学職別補導状況(人)】

高島警察署統計資料(令和6年12月末暫定値)より ()は女子の内数

学職別	行為別	喫煙	深夜 はいかい	刃物等 所持	怠学	無断 外泊	家出	飲酒	粗暴 行為	金品 不正 要求	不健全 娯楽	不良 交友	総数	前年
未就学児													0 (0)	1 (1)
小学生													0 (0)	7 (1)
中学生		1	1			1 (1)	1 (1)		3				7 (2)	3 (0)
高校生		3 (1)	7 (4)		3 (2)	1 (1)	2 (2)	10 (1)					26 (11)	17 (3)
その他学生								20 (6)					20 (6)	1 (0)
有職少年										2			2 (0)	6 (0)
無職少年			8 (8)					3 (1)					11 (9)	2 (1)
総 数		4 (1)	16 (12)	0 (0)	3 (2)	2 (2)	3 (3)	33 (8)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	66 (28)	37 (6)
前 年		9 (1)	9 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	15 (3)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	37 (6)	

- ・ここ数年の傾向として、高校生の深夜はいかい(午後11時～翌朝5時の時間帯の外出)の割合が高くなっており、令和6年は高校生やその他の学生の飲酒が増加しています。

高島市子ども家庭センター(少年センター、あすくる高島)

〒520-1521

高島市新旭町北畑45番地1

(子ども若者応援ベース内)

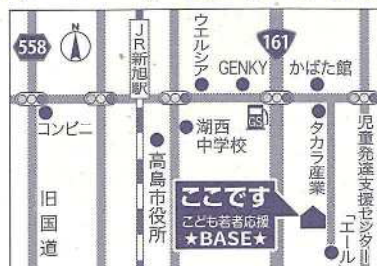
TEL: 0740-25-8556

FAX: 0740-25-8071

相談専用 TEL: 0740-25-8555

相談時間 9:00～17:00(月曜日～金曜日)

★土日や時間外の相談を希望される方は、事前にご連絡ください。



環境に配慮し、古紙配合率70%以上の再生紙及び植物油インキを使用しています